

令和元年5月20日

令和元年度農林水産省の熱中症に対する取組

農林水産省では、農作業中の熱中症事故防止に向けて、5月の春の農繁期、7月の「熱中症予防強化月間」にあわせて、農業者へ熱中症の予防のための留意点等を周知するため、下記の取組を行う。

また、ホームページや農林水産省メールマガジン等の様々なツールを活用して、幅広く周知を行う。

■ 各都道府県等への通知の発出（別添1）

5月の春の農繁期前、7月の強化月間前に熱中症の予防のための留意点について、各都道府県等に対し農業者への周知を図るよう通知を発出する。夏季作業で特に注意が必要な事項について、全国で行われる農業者が集まる集会及び行事等での周知等を実施するよう各都道府県に依頼する。また、関係団体や企業等に対しても同様の依頼を行う。

■ メールマガジンを通じた注意喚起等（別添2①）

農林水産省が農業者等宛てに発行するメールマガジンにおいて、農作業中の熱中症への注意喚起、予防対策等の情報を提供する。

■ 民間企業と連携した啓発（別添2②）

熱中症予防声かけプロジェクト、(株)大塚製薬と連携して冊子を作成・配布し、行政機関や農業機械メーカー等による啓発資材を活用した「声かけ」（注意喚起）を促す。また、昨年度作成したポスター、チラシ（熱中症予防対策チェックシート）について、誰でも容易に活用できるよう、引き続き農林水産省のホームページにも掲載する。

■ 熱中症研修の開催（別添3）

農林水産研修所において、都道府県担当者等を対象とした「熱中症及び作業環境対策コース」を開催し、熱中症発症のメカニズムや予防対策のポイント等に関する理解を深める研修を6月7日に実施予定。本研修は、例年、農林水産研修所つくば館水戸ほ場（茨城県水戸市）で開催してきたが、今年度は、ほ場等を使用しない座学であることや受講者の交通の利便性等を考慮し、農林水産本省で開催予定。

元生産第1号
令和元年5月9日

各行政機関の長 殿
各団体の長 殿

農林水産省生産局技術普及課長

農作業中の熱中症対策について

農作業中の熱中症による死亡者数は、毎年20人前後で推移し、7、8月に70代以上の方が屋外作業を行うときに多く発生しています。また、例年、5、6月にも、ビニールハウス内等での作業中に熱中症による死亡事故が発生しています。

気象庁の発表によると、平均気温は、1か月予報（5月4日～6月3日）で全国的に平年並か高い見込みとされているほか、3か月予報（5～7月）でも6月は東日本・西日本で平年並か高い見込みとされており、今夏も暑熱環境下での農作業中の熱中症対策が重要です。

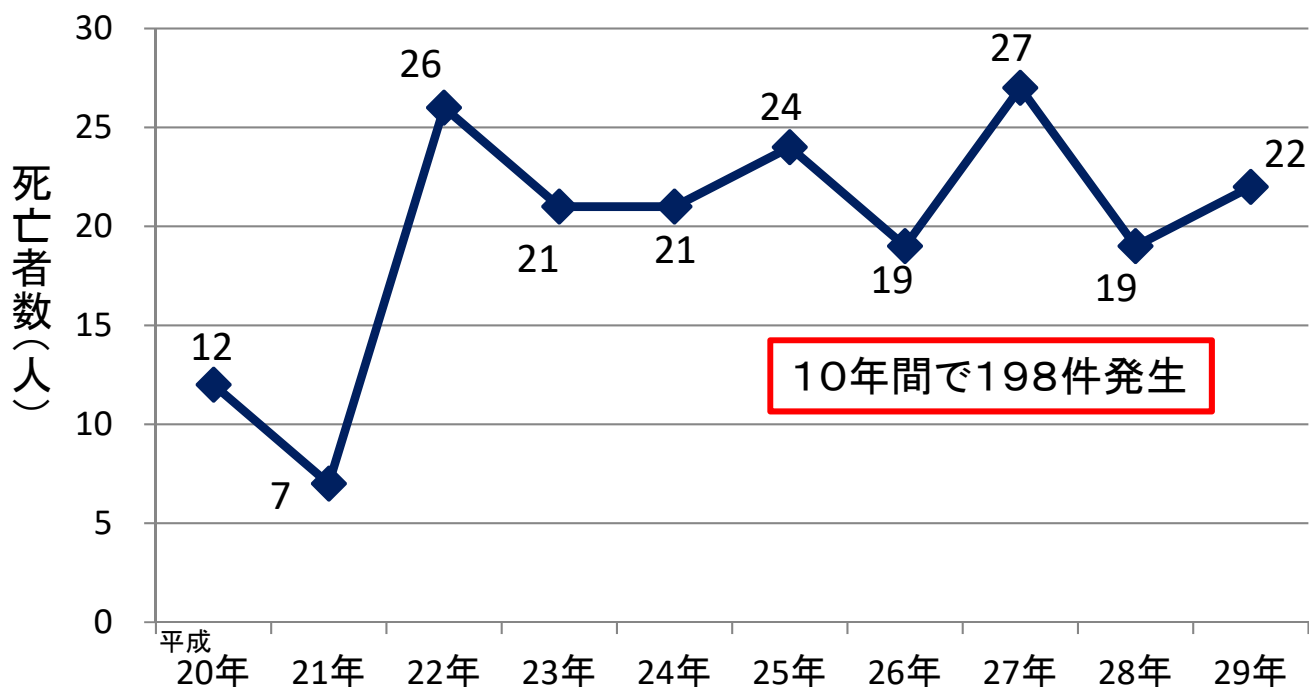
農業従事者の中には熱中症の具体的な症状が分からず、知らず知らずに熱中症にかかっている方が多くいます。特に高齢農業従事者は脱水しやすいため、こまめな水分と塩分の補給や休憩を周囲の方が協力して声かけを行う等、重点的な対策が必要です。

つきましては、熱中症の発生が急増する時期を迎える前に、農業従事者等に対し、あらゆる機会を利用して幅広く別紙の内容を周知し、熱中症予防に取り組んでいただくようお願いします。また、このことが取り込まれるよう貴局管下都府県に対して指導願います。

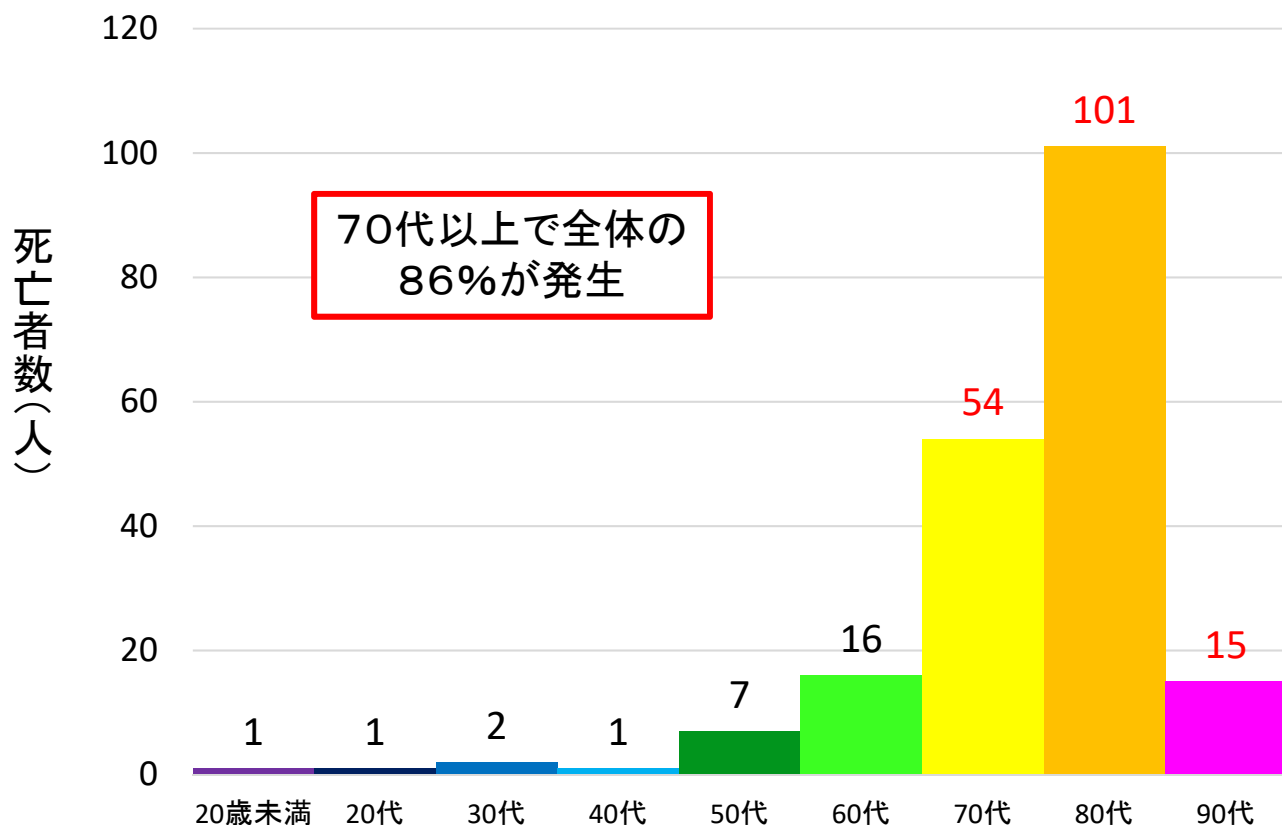
なお、今年度、農林水産研修所が実施する「農作業安全組織計画・運営研修 熱中症及び作業環境対策コース」につきましては、ほ場等を使用しない座学であること、受講者の交通の利便性等を踏まえ、東京都内（農林水産本省会議室）で実施することとしていますので、積極的に活用いただくよう周知願います。

農作業中の熱中症による死亡事故の発生状況①

農作業中の熱中症による死亡者数の推移

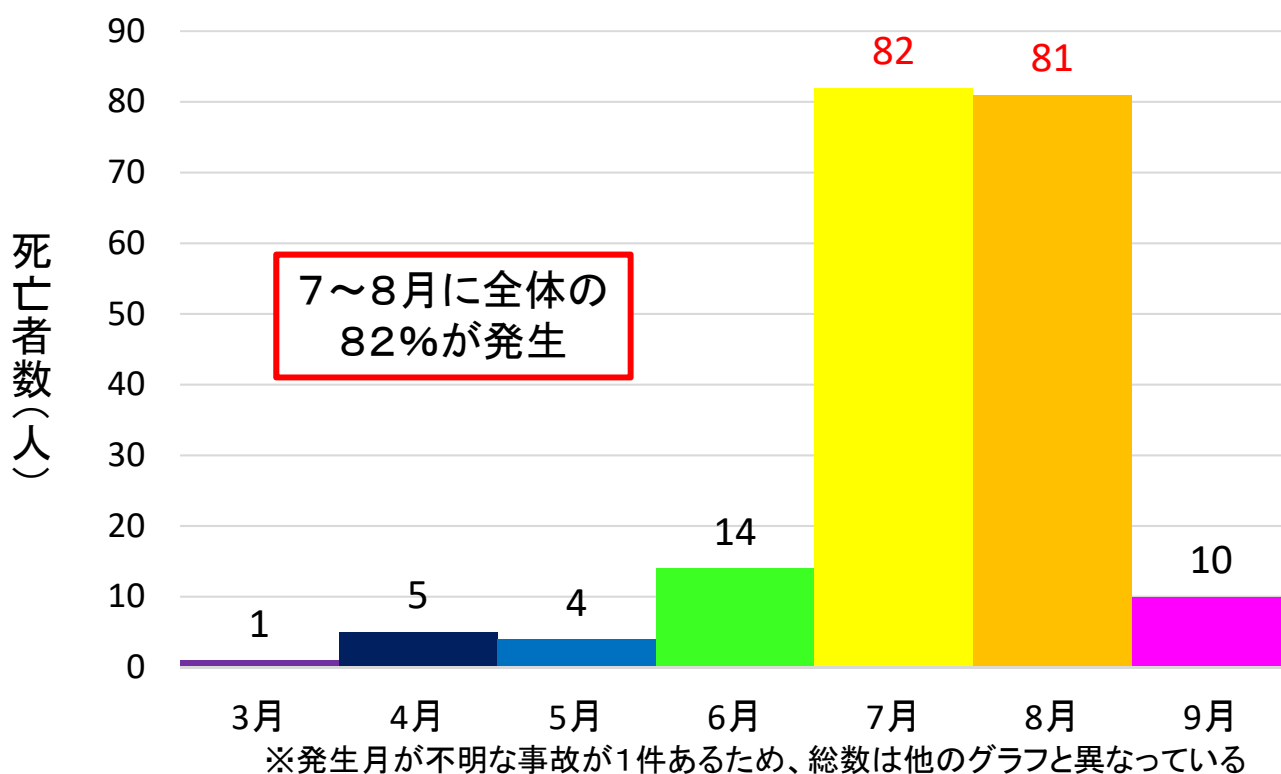


農作業中の熱中症による死亡者数、年齢別(平成20～29年)

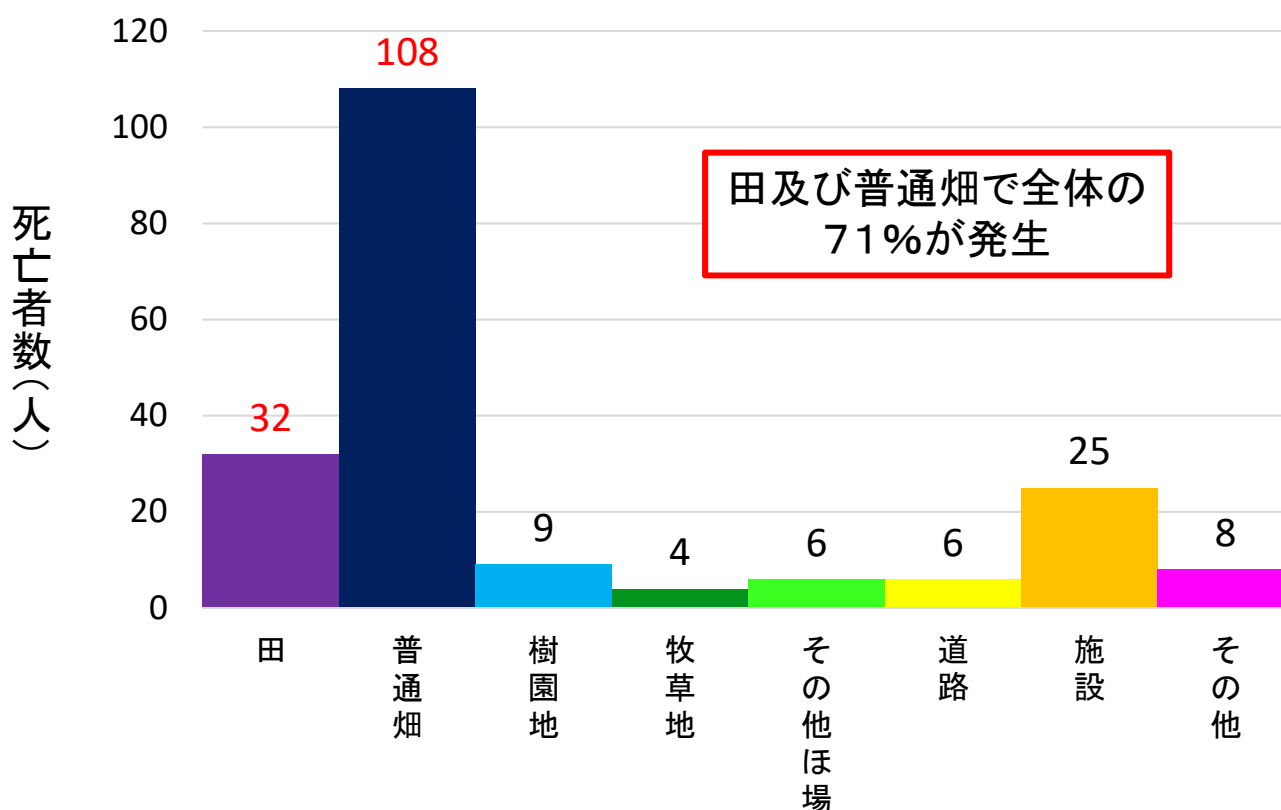


農作業中の熱中症による死亡事故の発生状況②

農作業中の熱中症による死亡者数、月別（平成20～29年）



農作業中の熱中症による死亡者数、場所別（平成20～29年）



農作業中の熱中症による死亡事故の事例

ビニールハウス内で作業中、熱中症で死亡(60代男性)

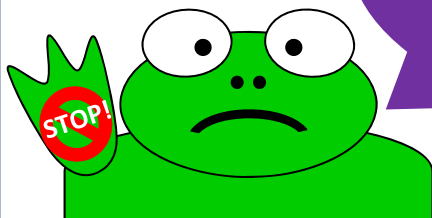
5月某日正午頃、ビニールハウス内で60代男性が心肺停止の状態で見られ、その後、病院に搬送されるも死亡が確認されました。当日は晴天で、気温は29度を記録しており、マルチはりを行っていました。農業経験50年のベテランでしたが、亡くなられてしまった事例です。

水田畦畔での草刈り作業中、熱中症で死亡(70代男性)

7月某日正午頃、朝から水田畦畔の草刈り中の70代男性が意識不明の状態で見られ、その後、搬送先の病院で死亡が確認されました。当日の気温は34.4度を記録しており、発見時、刈払機は手元になく、具合が悪くなり、意識を失ったものと推定されます。

畑での除草作業中、熱中症で死亡(50代男性)

8月某日夕方、動力噴霧器で畑の除草作業中に熱中症により倒れ、翌朝、畑内でうつぶせに倒れた状態で亡くなられていました。十分、体力がある年代(50代)であり、日頃から農業に従事されている方(暑さに慣れている方)であっても、熱中症で亡くなられてしまうことがあります。



どうしてこのような事故が起きてしまったのでしょうか。
次のページから、熱中症の事故を防ぐポイントをご紹介します。

無事に家にカエルまでが農作業！



農作業と暑さ指数について

- 暑さ指数(WBGT)は、暑さの厳しさを示す指標です。
- 高ければ高いほど、熱中症になりやすくなります。熱中症対策を行う場合、気温よりも暑さ指数を見るようにしましょう。

身体作業強度	作業の例	暑さ指数(WBGT)基準値
安静	安静	33 (暑さに慣れていない人は32)
軽作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽な座位、立位、軽い手作業(書く、簿記など) ・手及び腕の作業(点検、組み立てや軽い材料の区分け) ・腕と足の作業(普通の状態での乗り物の運転、足のスイッチやペダルの操作) 	30 (暑さに慣れていない人は29)
中程度の作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・トラクターや重機の操作、草むしり、果物や野菜を摘む ・軽量の荷車や手押し車を押したり引いたりする 	28 (暑さに慣れていない人は26)
激しい作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・シャベルを使う、草刈り、掘る、のこぎりをひく ・重い荷物の荷車や手押し車を押したり引いたりする 	25 (暑さに慣れていない人は22)
極めて激しい作業	<ul style="list-style-type: none"> ・激しくシャベルを使ったり掘ったりする、斧をふるう、階段を登る、走る 	23 (暑さに慣れていない人は18)

日本工業規格Z8504(人間工学—WBGT(湿球黒球温度)指数に基づく作業者の熱ストレスの評価—暑熱環境) 附属書A「WBGT熱ストレス指数の基準値表」を基に作成

**お住まいの地域の暑さ指数は
こちらから見られます！**

http://www.wbgt.env.go.jp/wbgt_data.php

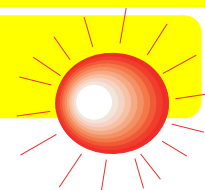


**お住まいの地域の暑さ指数を毎朝
メールでお届けすることもできます！**

http://www.wbgt.env.go.jp/mail_service.php



夏の農作業で心がけること



1. 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行いましょう

- ☀ 特に70歳以上の方は、のどの渇きや気温の上昇を感じづらくなるので、高温時の作業は極力避けましょう

2. 作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩をとりましょう

- ☀ のどが乾いていなくても20分おきに休憩し、毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょう
- ☀ 足がつったり、筋肉がピクピクする症状がみられたら、0.1～0.2%程度の食塩水（1Lの水に1～2gの食塩）、スポーツ飲料、塩分補給用タブレットを摂取しましょう
※市販品を摂取する際は、必ず成分表示をチェックし、適切な量を摂取してください。
- ☀ 休憩時は、日陰等の涼しい場所で休憩し、作業着を脱ぎ、手足を露出して体温を下げましょう



3. 熱中症予防グッズを活用しましょう

- ☀ 屋外では帽子、吸汗速乾性素材の衣服、屋内では送風機やスポットクーラーなどを活用しましょう

4. 単独作業を避けましょう

- ☀ 作業は2人以上で行うか、時間を決めて水分・塩分補給の声かけを行うなど、定期的に異常がないか確認し合うようにしましょう

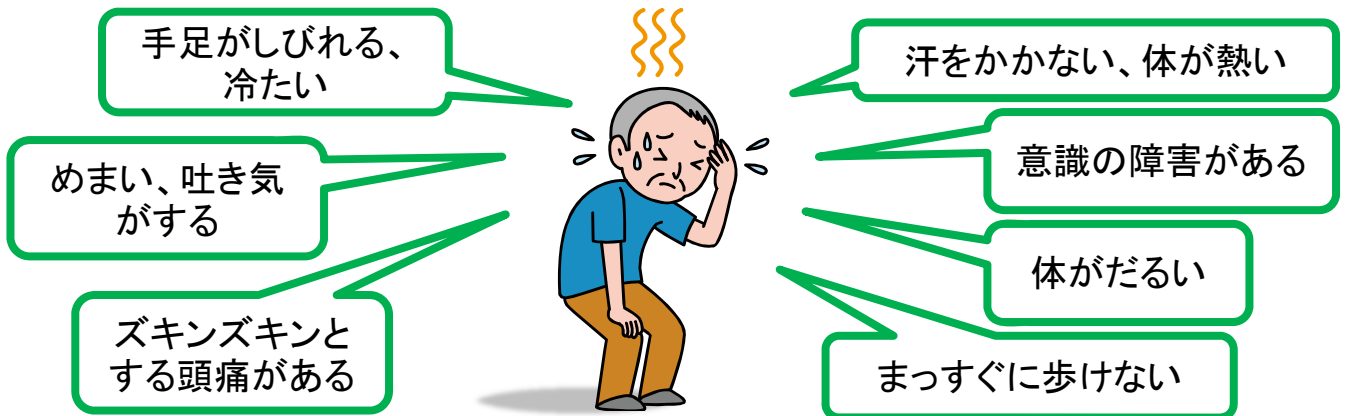
5. 高温多湿の環境を避けましょう

- ☀ 暑さ指数(WBGT)計、温度計、湿度計で、作業環境を確認しましょう。
- ☀ 作業場所には、日よけを設ける等できるだけ日陰で作業をするようにしましょう
- ☀ 特にビニールハウス等の施設内は風通しが悪く、早い時期、早い時間から暑さ指数(WBGT)が高くなるため、風通しを良くしたり断熱材を活用しましょう

熱中症が疑われる場合の処置

1. 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断しましょう

☀ 代表的な症状は以下のとおりですが、熱中症には特徴的な症状がなく、「暑い環境での体調不良」は全て熱中症の可能性あります

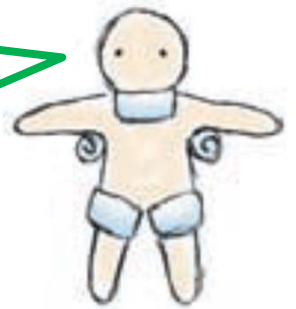


2. 応急処置を行いましょ



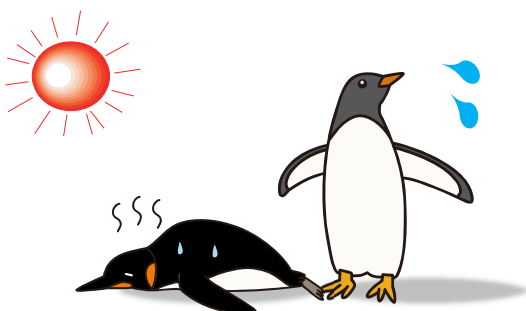
- ☀ 涼しい環境へ避難しましょう
- ☀ 服をゆるめて風通しをよくしましょう
- ☀ 水をかけたり、扇いだりして体を冷やしましょう
- ☀ 水分・塩分を補給しましょう

脇の下、両側の首筋、足の付け根を冷やすと効果的です



3. 病院で手当を受けましょ

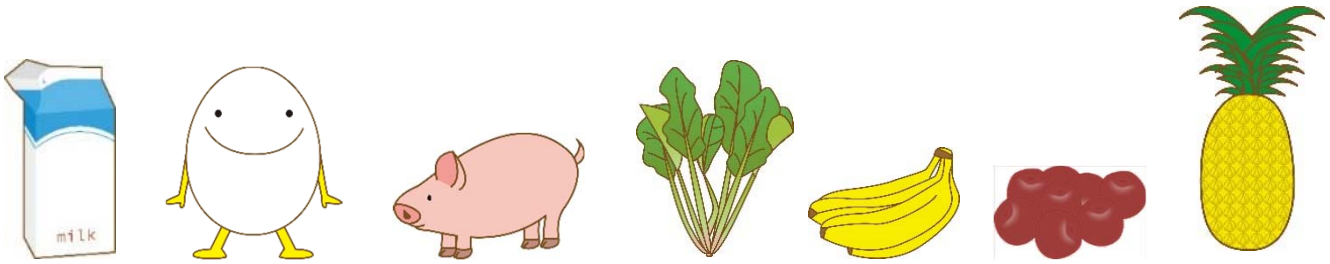
☀ 意識がない場合、自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても症状がよくなる場合は、すぐに病院で手当を受けるようにして下さい



日常生活で心がけること

1. 暑くなる前に、熱中症に負けない体作りをしておきましょう

- ☀ 暑さに慣れるため、毎日30分くらい歩く習慣をつけましょう
- ☀ 暑さに強くなる食べ物を積極的にとりましょう
(ビタミンB1を含む豚肉や卵、カリウムを含むほうれん草やバナナ、クエン酸を含む梅干しやパイナップルなどが効果的です)



2. 暑くなってきたら、日々の体調管理に一段と気をつけるようにしましょう

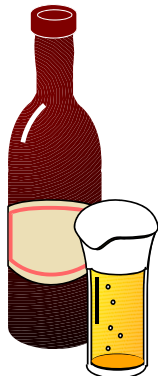
- ☀ 高血圧症・糖尿病等の持病や、睡眠不足・前日の飲酒・朝食の未摂取等は熱中症の発生に影響を与えます



朝食は作業前に欠かさず食べましょう



睡眠はしっかりとりましょう



お酒はほどほどにしましょう
(気づかないうちに脱水します)



持病がある場合や体調不良のときは
翌日の作業内容の変更などを検討しましょう

参考情報

- 熱中症対策を含む農作業安全対策全般について
農林水産省ホームページ「農作業安全対策」
http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/index.html#necchuushou
- 熱中症予防グッズについて
全国農業機械商業組合連合会ホームページ「おしゃれな農作業ウェア」
<http://www.zennouki.org/ware.html>
- 熱中症全般について
環境省ホームページ「熱中症予防情報サイト」
<http://www.wbgt.env.go.jp/>
- 農業法人等で雇った人の熱中症予防や地域の高齢者等に対する熱中症対策の事例等について
厚生労働省ホームページ「熱中症関連情報」
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/nettyuu/
- 気温に関する予測情報などについて
気象庁ホームページ「熱中症から身を守るために」
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kurashi/netsu.html>

① メールマガジンを通じた注意喚起

○平成30年度実績

発出日	名称	対象者
5月1日	e普及だより	都道府県の普及指導員
5月9日	農業女子メール	農業者
6月11日	農村ふるさと保全通信	農業者、関係団体
6月26日	農業経営者net	農業者
6月29日	農業担い手メールマガジン	〃
7月17日	農業担い手メールマガジン	〃
7月18日	e普及だより	都道府県の普及指導員
7月20日	農業経営者net	農業者
8月1日	一農ネット便り	〃

→ 今年度も
同様の取組を予定。

② 民間企業との連携



熱中症予防声かけプロジェクト、
(株)大塚製薬と連携して冊子を作成

農作業中の熱中症対策

農作業中の熱中症発生データを見ると、7～8月が多く、
70～80代の方の屋外作業中に集中しています。
農業従事者の中には、知らず知らずのうちに熱中症に
かかっているケースも多く、特に高齢の方は暑さやのどの
渇きを感じにくいため、注意が必要です。
安全確認のためにマメに連絡を取り合うなどして、
しっかり対策をしましょう。

夏の農作業でのポイント

- 計画的に作業しましょう!
日中の気温が高い時間帯の屋外作業は極力避けましょう。
どうしても必要な場合は帽子をかぶり、作業時間を短くし
ましょう。
- 水分・塩分補給の時間をとりましょう!
のどが渇いていなくても、20分おきに休憩し、毎回コップ
1～2杯以上を目安に水分補給をしましょう。
- なるべく2人以上で作業しましょう!
なるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり
異常がないか確認し合うようにしましょう。
- ビニールハウスや畜舎も注意!
炎天下ではない施設内も、高温多湿ならリスク大。
風通しをよくするなどの対策をしましょう。

万が一に備えて・・・携帯電話を持って行こう!
緊急連絡先も登録しておこう!

平成31年度(西暦2019年度) 農作業安全組織計画・運営研修 熱中症及び作業環境対策コース

東京開催

開催日時:6月7日(金) 10:45~16:40
 受講対象:農業法人、JA、都道府県等の職員
 申込方法:受講申請書(HPより入手できます)に必要事項を記載の上、下記のお問い合わせ先に郵送して下さい。

開催場所:農林水産省生産局第1会議室(ドアNo.232, 234)
 申込期限:5月31日(金) 定員:30名

受講無料

基礎的な熱中症の発生メカニズム

熱中症発症のメカニズム、予防法、発症後の対応について解説します。

(講師:桐蔭横浜大学大学院 スポーツ科学研究科
 教授 星 秋夫氏)

深部体温に注目した熱中症対策

熱中症対策としての水分電解質補給及び深部体温について解説します。

(講師:大塚製薬(株) ニュートラシューティカルズ事業部
 学術部長 田中久士氏)

農業現場における熱中症予防

農業現場における高齢者・ビニールハウスに多い熱中症の特徴等について解説します。

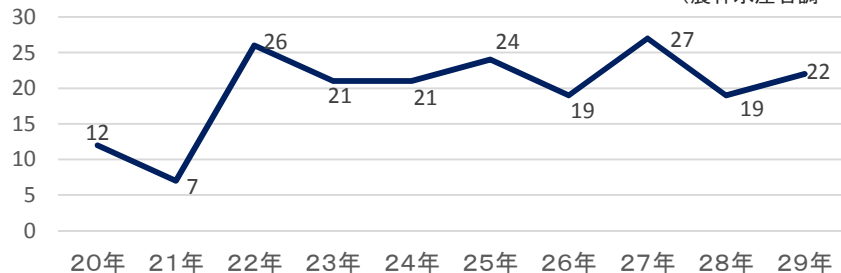
(講師:東京農業大学 国際食料情報学部
 教授(医学博士) 檜村修生氏)

今年の夏の天候見通し

この夏予想される気象状況やこの夏の天候の特徴、天気予報を見る時のポイントチェックについて解説します。

(講師:NPO法人 気象キャスターネットワーク
 気象予報士 水越祐一氏)

直近10年間の農作業中の熱中症による死亡事故件数の推移
 (農林水産省調べ)



熱中症予防には、「水分補給」と「暑さを避けること」が大切です。

- ・暑さをしのぐ服装
- ・水分補給
- ・熱中症になりにくい室内環境



アクセス

農林水産省(東京都千代田区霞が関1-2-1 (最寄駅:地下鉄(丸ノ内線霞ヶ関、日比谷線霞ヶ関、千代田線霞ヶ関))

お問い合わせ

〒305-0853 茨城県つくば市榎戸748-1
 農林水産省農林水産研修所つくば館(農業機械・農作業安全研修担当:上杉、小林) TEL: 029-839-9481

<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/tukuba/mito/zyuko/img/31netu.html>